

【 バックナンバー 】

- 2020年6月号「コロナ禍の日本—国民のいのちと暮らしは？」(山本民子・岸本啓介・塚田豊子・藤原麻子・小畑雅子・伊藤希・卯城ひさる) / コロナ危機 世界の女性のため 国際民婦連(WIDF) / ジェンダー4 署名「民法・戸籍法の差別的規定の廃止・法改正を」 / 「わが愛」 「在留ベトナム人の『駆け込み寺』 命と人権を守る」(吉永慈豊)
- 7・8月号「コロナ禍の日本(II) 国民のいのちと暮らしは？」(澤田幸子・森田しのぶ・藤原るか・高杉末子・寺内順子・芦田麗子) / ジェンダー4 署名『慰安婦』問題の解決を—『慰安婦』制度は、今日につながる最大の性暴力」(吉川春子) / 「わが愛」 「新型コロナウイルス感染症で失われたもの」(前田佳子)
- 9月号「今、ケアに満ちた政治を求めるとき—コロナ禍が露わにした特権的な無責任」(岡野八代) / 「アメリカ黒人の命を奪う『2つのパンデミック』—新型コロナと人種差別」(矢部武) / 「守谷武子さん(元婦団連会長)を偲ぶ」 / 「わが愛」 「動物視点からみた道徳教材」(渡辺典子)
- 10月号「コロナ禍の教育を考える」(前川喜平・畑屋早苗・折出幸・中野佳代) / 「コロナ禍で公演が中止！」(中川美保・楯岡真弓) / **新連載** 「女性医師の見た新型コロナウイルス感染症」(前田佳子) / **新連載** 「地球温暖化」(歌川学) / 「わが愛」 「大学って何だろう」(あかたちかこ)
- 11月号「コロナ禍でも進められる『戦争する国』への道—『敵基地攻撃能力保有』の議論と危険な現状」(半田滋)・「木更津が陸上自衛隊オスプレイの一大拠点に」(紙谷敏弘)・「~米軍ヘリ部品落下事故をうけて」(宮城智子) / 中学校教科書採択(鈴木敏夫・土志田栄子) / 「わが愛」 「マンガ『100日で崩壊する政権』」(ぼうごなつこ)
- 12月号「女性たちのたたかいはつづく」(内山佳子・柿田彩・加藤健次) / 戦後75年—戦争被害を語り継ぐ(浅井春夫・西村幸吉・杉村幸子) / 「わが愛」 「すべての人に星空を」(高橋真理子)
- 2021年1月号「2021年のいのち・暮らしを守る政治に転換を」(長尾詩子) / 「私たちは行動する—若者たちの決意」(疋田万理・入福日向子・久保田亮) / 「ステイホームの日々—世界シネマ旅」(具島順子) / 「わが愛」 「ジェンダー平等に向けて—日本学術会議の提言から」(三成美保)
- 2・3月号「2021年国際女性デー」 / 国際民婦連(WIDF) 創立75周年 コロナ禍のなかで各国のたたかい / 労働契約法20条裁判最高裁判決(今野久子) / 持続可能な食と農をめざして(藤原麻子) / 被爆体験集(山野井恵子) / 「わが愛」 「女性と安全保障—チャウドリー大使の先見の明」(鷲見八重子)
- 4月号「東日本大震災・福島原発事故から10年」(阿部秋子・高野和子・青龍美和子・斎藤富春) / 「わが愛」 「宮本百合子没後70周年と『わきまえない女たち』」(北田幸恵)
- 5月号「性差別を許さない！ 森発言からジェンダー平等を考える」(中島万紀子・久保田みき子・伍淑子・深山麻美子・宮本里英子) / 「わが愛」 「憲法のこころ」(斉藤とも子)
- 6月号「コロナ禍1年—支援の取り組み」(岡田はるか・坂本理美・寺園通江) / 「菅政権が進める『デジタル化』は暮らしに何をもたらすか」(久保貴裕) / 「JAL 不当解雇11年目」 / 『知られざる拓北農兵隊の記録』 / 「わが愛」 「大学のオンライン授業事情とJAL 不当解雇事件」(野中郁江)
- 7・8月号「日米軍事同盟はどこへ向かおうとしているのか」(千坂純) / 「遺骨の混じった土砂を辺野古の埋め立てに使うな！」(川崎善美)・空襲被害者に救済を(河合節子)・『炎と飢えと』50集発行(橋本洋子)・「上海から引き揚げ」(鈴木泉子) / 「わが愛」 「コロナ禍の貧困パンデミックと公助の頼りなさ」(小林美穂子)
- 9月号「第204国会を振り返る」—「自民党改憲発議を阻止し、いのちと人間の尊厳を守る新しい政治を」(大江京子)・「高齢者窓口負担2割、病床削減推進法は医療崩壊をもたらす」(松山洋)・「小人数学級が前進！」(糀谷陽子)・「見送られたLGBT 理解増進法案」(湯山薫) / 「妻・横井久美子との、ある夏の日の思い出」(友寄英隆) / 「わが愛」 「放送から研究の世界へ」(谷岡理香)